

令和3年度第2回徳島県周産期医療協議会 議事録

1 日 時

令和4年3月24日（木）午後7時から午後9時まで

2 方 法

オンライン会議（Zoom）

3 出席者

（1）委員（16名）【五十音順・敬称略】

今川 玲代，苛原 稔（会長），加地 剛，香美 祥二，
亀井 香（代理：久次米 孝浩），木下 ゆき子，近藤 秀治，斎藤 誠一郎
佐藤 純子，田山 正伸，中川 竜二，春名 充，船戸 豊子，
前川 正彦，宮崎 達志，森定 奈津美

（2）オブザーバー

小谷 裕美子，森岡 久尚

（3）事務局等

県保健福祉部（健康づくり課，医療政策課・広域医療室），消防保安課，
病院局，次世代育成青少年課，各保健所等

4 会議次第

（1）開会

（2）議事

①令和3年度周産期医療協議会専門部会報告について

- ・母子保健専門部会報告
- ・災害対策部会報告
- ・妊産婦メンタルケア部会報告
- ・産科医・小児科医の働き方改革を含めた医師確保のあり方検討部会報告

②令和3年度 HTLV-1 研修会実績報告について

③新型コロナウイルス感染症流行下における徳島県の周産期医療体制について

④情報提供

⑤その他

（3）閉会

5 議事の概要

（2）令和2年度周産期医療協議会専門部会報告について

○母子保健専門部会より

（加地部会長）母子保健専門部会報告資料について説明【資料1】

（会長）プレコンプシヨンケアで努力をしていき、防げるものは防ぎたい。

窒息死については詳細が分かりかねるが、小児科の先生から具体的な意見はあるか。

(委員)今回は窒息疑いで分類されているが、今までは死因不明で検討できないという処理であったが、今後どのように体制の整備をしていったらいいのか。死因の究明について、今回の乳児の死亡5例に関しても、特に精査して、対応策を考えていかなければいけないと思う。県のご意見を頂きたい。

(事務局)死因究明に関しては、チャイルドデスレビュー事業（予防のための子どもの死亡検証）を、四国では高知県と香川県が実施している。現状を聞き取った内容をお伝えしたい。高知県と香川県では、令和2年、3年に事業実施されており、国が2年後に制度化するという目的のもとで開始したそうだが、2年経った令和4年度もまだモデル事業となっている。課題として、保護者同意を得なければいけないこと、すでに予防が明確な症例については検討の対象とならない等、実際検討対象となる症例が少ないと把握している。また、連絡調整会議を設置し多くの関係機関とのやりとりが必要でありマンパワーも必要。その他、個人情報観点から症例をどのように集めるのかといった問題や、症例を検討した結果、対策に繋がることなどがまだ見えていないと把握している。国が制度化する方向で実施している事業を引き続き注視していく。

(事務局)他県の動向としましては、海外のチャイルドデスレビューをもとにして、先進的に取り組まれていた地域もあったかと思う。それがモデル事業として始まり、2年経ってもまだこういう状況ですので、この課題についても検討しながら進めたいと思う。死因究明については、徳島大学の法医学の先生を中心に、先ほどのチャイルドデスレビューのメンバーに入って頂き、県警などにも入って頂けるかどうか合わせて検討させて頂きたいと思う。

(委員)令和3年度、窒息死症例が増えており、影響も考えていかなければいけないと思うので、是非とも体制整備をお願いしたい。

(委員)チャイルドデスレビューも、話を聞く限りでは円滑に進んでないようである。産婦人科の先生の中には、日齢300で亡くなったお子さんを周産期として扱うかどうか、小児の問題だと考える先生方もおられるのではないかと思う。徳島県で乳児が亡くなった原因を検討する場が、この場しかないのではないかと個人的には思う。来年以降も引き続き周産期に限らず、1歳までの乳児を対象として死亡の原因に光を当て続けて頂ければ、小児科医として有り難いと感じている。

(会長)周産期協議会になっておりますが、小児科、産婦人科の問題点を抽出するというのも一つの意義である。先生の希望も含めて進めていければと思う。県のほうも、引き続き他県の状況もご覧になりながら、原因が分かるような工夫をお願いしたい。私達も、それぞれの立場でご協力をさせていただければと思う。

○災害対策部会より

(前川部会長) 令和3年度事業実施結果及び令和4年度事業計画について説明【資料2】

(会長) 災害対策部会で、研修会を開催いただき、コロナの蔓延も、考えてみれば災害対策的などころがあるという話。先日も東北地方で地震があったところ。災害訓練もコロナの状況で十分ではないと思うが、受講頂ければと思う。

リエゾン研修だが、名簿を見ますと、大学の先生が多いように思う。オンライン講習ではない場合、1泊2日で東京へ行かなければいけないため、休みが取りやすい大学の先生が主となっていた。毎年12月頃、産婦人科医、小児科医、助産師さん等に声かけするが、来年は2名なので、他の病院に声を掛けて、相談しながらやらせて頂けたらと思います。2名ほどでよろしいのですかね。

(事務局) オンラインですと令和2年度、3年度、定員5名でしたので、次年度もオンラインでしたら5名になるかと思う。

(会長) オンラインであると参加がうまくいくんですが、東京に行かなければいけないとなると、仕事の関係もあり、難しい人もおられると思う。

リエゾンの先生方は、新型コロナウイルス対応として、月曜日と水曜日、週2回の午前中だけ県庁入院調整本部へお伺いしているようだが、いざとなったときの災害対策になると思うので、良いかなと思っている。是非注意喚起をよろしくお願いいたします。

(事務局) リエゾンの先生方には、県の調整本部へお越し頂き本当にありがとうございます。連携を取る上で今後必ず役立つと思いますので、よろしくお願い致します。

東日本大震災から11年経って間もない時に、先日の地震、福島県が震度6強ということでもあります。ライフラインが止まった時、災害拠点病院でのライフラインの備蓄という点で、要件が改められました。停電や水のライフラインの所は、生活も含めてですので、周産期のネットワークにおいては、EMIS（広域災害救急医療情報システム）の入力もそうだが、事前の基本的な入力、いざという時の発信というような情報共有でのネットワークを生かして頂いて、備えて頂ければと思っている。

(会長) いざ災害が起こった場合には、我々周産期だけの問題ではないので、私たち自身も自分で対応ができる準備はしておかないといけないと思う。

○妊産婦メンタルケア部会より

(春名部会長) 令和3年度事業実施結果及び令和4年度事業計画について説明【資料3】

(会長) アンケート調査の結果は、公表するのか。

アンケートをしただけではもったいないと思う。

(事務局) リストに関しては、妊産婦さんに関わる関係機関が活用するものと考えている。

アンケート公表の件に関しては、部会長と相談させて頂きたいと思う。

(会長)産婦人科、小児科、精神科等が関連していますので、何かいい方法で知ってもらうのも大事だなと思う。

パパママポケットは皆さん方に配っているのでしょうか。

(事務局)母子健康手帳をお渡しする時に、一緒に渡しています。

(委員)リストの活用方法の中に、医療機関、市町村、保健所内での使用に限りますとなっているが、ここに助産所を入れてもらうことは可能か。

(事務局)助産所も掲載させていただく。

(会長)助産師会は妊婦さんを訪問されることが多いと思いますけれど、そういう時に問題があるなと思う方がいるか。

(委員)産後ケア訪問で、メンタルが気になる方がいる場合は市町村の保健センターに報告するが、それ以外に自ら助産所に来られる方もいたり、訪問の時にクリニック受診に関する質問があったりする。情報提供ができたらと思っている。

○産科医・小児科医の働き方改革を含めた医師確保のあり方検討部会より

(部会長・オブザーバー)

産科医・小児科医の働き方改革を含めた医師確保のあり方検討部会報告資料について説明

【資料4】

(会長)来年、病院調査票も含めて深い考察をして頂けるというお話。2024年度から非常に厳しい状況になっていくと思うのですが、医師を派遣する側としてご発言頂きたい。

(香美部会長)2024年度に向けて、徳島県内の病院との連携や体制作りを進めていきたいと思う。その中で、小児科や産婦人科の先生方の働き方改革を考えて行こうと思う。

(会長)いろいろ問題はあると思いますが、2年間で準備を整えていければと思う。

(事務局)大学病院、各関係者と早急に協議をさせて頂きたいと思います。

(2)令和3年度 HTLV-1 研修会実績報告について

(事務局)令和3年度母子感染対策研修会実施報告【資料5】

(会長)2名の先生方から貴重な講義をして頂きました。来年度も予定されるのでしょうか。

(事務局) 継続して実施する予定。

(3) 新型コロナウイルス感染症流行下における徳島県の周産期医療体制について

(事務局) 新型コロナウイルス流行下における徳島県の周産期医療体制について説明
【資料6】

(会長) 1月になってから、オミクロン株での感染が非常に増え、併せて妊婦さんの感染も増えている。現在も少なくなったとはいえ、これからも続くと思う。新型コロナウイルス感染症について、妊婦さんで大きな問題が発生したことはあるか。

(委員) ワクチン接種で胎児に影響があるという報告はない。妊娠後期に発症すると、母胎が呼吸困難になり、赤ちゃんが酸欠になったり、破水を起こして早産になるという報告はたくさんあるところ。

(会長) 以前、生まれたお子さんは、あまり問題ないのではないかという事だったがどうか。

(委員) 新生児領域で、オミクロンで問題になっていることはほとんどないので、今の対策で十分だと考える。

(委員) 小児のコロナ感染者の重症例はほとんどないと聞いている。オミクロン株で妊婦さんの感染者が増えて、自宅療養の妊婦さんを、産婦人科の先生と内科の先生と2人でサポートしているとお聞きしたが、妊婦さんはほとんど自宅療養で可能だったのか。そこから入院した例はあったのか。

(事務局) リエゾンの各先生と相談させていただき、その上で、妊娠後期の方については入院して様子を見ていただき、解除になって退院された方もいれば、そのまま出産になった方もいる。最近では自宅療養の方が増えてきている。家庭内感染の方が多いので、家族皆でサポート医の先生にお世話になっている方も多い。

(会長) 大きな問題はなかったようだ。ワクチン接種の進捗はどうか。

(事務局) 妊婦さんのワクチン接種については、若い方の3回目接種ができる時期がこれから来ますので、今後進んでいくと考えている。

(4) 情報提供

(委員) 徳島県における乳幼児RSウイルス重症化予防対策について説明【資料7】

(会長) ハイリスク児とは、どういうのを指すのか。

(委員)具体的には在胎28週未満で生まれた超早産児、36週未満で生まれたお子さんで、生後1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月と重症の急性細気管支炎のリスクが非常に高いお子さん、ダウン症候群、免疫不全、先天性心疾患のお子さんをハイリスク児として考えている。

(委員)事細かく発信して頂いて、全体に周知されていると思う。

(委員)対応が素晴らしかったと思う。RSウイルスの流行期に、病床数1.5倍に増床して対応した。シナジス適応のお子さんは、ほぼ入院されなかったのも、昨年の判断は素晴らしかったと思う。

(委員)昨年、投与時期の定点を詳細に分析して下さり、時期を決めて頂いたことで、当院でフォローさせてもらっている早産の方も、RSウイルスに罹患しなかった。今回も提案して頂いている方針で、シナジスの投与時期を決めて頂けたらと思う。

(委員)細かくまとめて頂いていますので、この通りでよろしいかと思う。

(会長)皆さんの同意を得られていますので、資料7の方針の通りに決めさせてもらってよろしですか。県もよろしくご支援お願いしたい。

(委員)助産師活用推進事業について説明【資料8】

(会長)この事業は継続するのか。

(委員)看護協会としては、県に予算を取って頂けたら続けていきたいと考えている。助産所と精神科との連携も一緒に入れて頂けたらと思います。

(事務局)とくしまの小児救急医療体制【資料9】

(5)その他

(事務局)新生児マススクリーニングについて説明

(小谷委員)前年度のマススクリーニングの結果は、県でまとめてもらうことになっている。これについて、協議会で発表させていただく事も大事ですし、産科、小児科の先生に、現行のマススクリーニングの改定点等をお知らせする機会を持たせていただけたらと思う。拡大マススクリーニングについては、会を開く方向でご検討頂き、話を進めたいと思う。関わる全ての先生方に、お知らせできるような手立てを教えて頂けたらと思っています。

(会長)令和3年度は調査して頂いたようですが、令和4年度は、次回の第1回目のこの会で調査結果報告をして頂くということでもいいですね。拡大マススクリーニングの会のメン

バーは、次回決めるということよろしいですか。

(事務局) 次回にメンバーを決めて頂けたらと思います。

(会長) 今年も、HTLV-1 の講演会は小児科、産婦人科の先生が出席しておられるので、その時にデータがまとまるようでしたら時間を取らせていただき、お話していただけたらと思うがどうか。

(委員) 徳島県の西部医療圏は三好市が中心だと思うが、四国中央病院にも分娩に行っているという情報があった。四国中央病院は、徳島大学から医師が行っているの、四国中央病院の先生に、徳島県に住所がある方の分娩数を調べていただいた。2019年が10件、2020年が11件、2021年が12件と、多くはないが、10件前後徳島県の方が四国中央病院で分娩している現状がわかった。四国中央病院で徳島県の周産期医療をして頂いているという側面もあり、四国中央病院の現状が我々にはわかっていないのではないかと思う。地域枠の先生が四国中央病院に行ったとき、徳島県の周産期医療を担っているという側面もあるので、地域枠の診療にカウントしてもらうなど、今後検討していただければと思う。

(会長) 極めてハードルが高いと思う。地域枠の問題は我々だけでは進められない難しい問題を抱えているので、できるだけ徳島大学で情報を集めながら県と相談しながら対策を練るということとする。

(会長) 他にないようでしたら、事務局にお返ししたいと思います。